

【山陰インバウンドニュース 8月号】

令和3年8月31日
(一社) 山陰インバウンド機構

【9月21日開催】山陰インバウンドセミナー ゲートウェイ別の観光実態調査事業結果報告会について

当機構では、今年度、外国人観光客の山陰地域への来訪状況を把握・分析する「ゲートウェイ別観光実態調査事業」を実施しました。今回、当該調査事業の結果報告会を下記のとおりオンラインで開催いたしますので、山陰地域の観光DMO、行政関係者及び観光事業者の皆様におかれましては、是非、ご参加いただき、今後のインバウンド誘客の取組みの参考としていただければと思います。

◇日時：令和3年9月21日（火）13：30～14：30

◇演題：「ゲートウェイ別の観光実態調査事業結果報告について」

◇内容

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2019年におけるNTTドコモ・モバイル空間統計データ及びFF-データ（国土交通省訪日外国人流動データ）から得た、山陰地域（エリア別）を訪れた外国人観光客の観光客数、宿泊者数、出入国空港、他地域間訪問状況等、外国人観光客の動向の調査・分析結果を報告します。

◇開催方法：Webサービス「ZOOM」のウェビナー機能を利用

◇参加費：無料（Webサービスへの参加は無料です）

◇参加方法は、当機構WEBサイトをご参照ください。

https://www.sanin-tourism.com/news_dmo/seminar_information/7485.html

◇講演者

公益財団法人中国地域創造研究センター

調査・研究部 みらい創造グループ 主席研究員 吉原俊朗 氏

「山陰ツーリズム人材育成塾」へようこそ！～開校式、第一回講座がスタート～

8月16日、「山陰ツーリズム人材育成塾」の開講式がオンラインで開催されました。

当塾は、地域資源（伝統、生活文化、自然、産物等）を活用しながら観光ビジネスを実践できる人材を育成・輩出し、地域の活性化に繋げることを目指し、開講するものです。

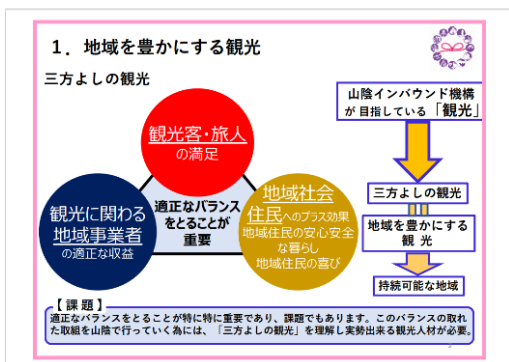
国立大学法人と観光地域づくり法人が連携し、地域に観光人材を輩出するという全国でも珍しい今回の取組みに、観光に留まらず様々な分野から申込があり、最終的に21名の塾生を迎えることになりました。

オンライン形式で開催された開講式では、島根大学の服部学長より、「本塾の教育を通じて、観光についての新しい知識・スキルを獲得し、21名の仲間とともに切磋琢磨しながら、観光事業の取組みに積極的に挑戦していきたい」と今後の学修に対する期待が述べられました。当機構の福井代表は「山陰はインバウンドにとって魅力的な地域。コロナ禍で観光を取り巻く環境は変化しているが、皆さんには地域を活性化できる観光人材となっただきたい」と激励しました。

開講式終了後には、第1回目の講座が開始。今後、外部講師を招いた講座、ゼミ、先進地域の視察等を重ね、塾生それぞれが描く観光ビジネス創出のプロジェクト実現に向けて動いていきます。

【これまでに実施した講座】

日程	内容
第1回（8/16）	山陰に求められる観光人材とは、「観光」とは何か？ 日本の現状と観光政策、未来は？
第2回（8/23）	山陰地域の現状（社会/経済/観光）・観光事業者の現状と未来
第3回（8/30）	地域を豊かにする観光事業創出とまちづくり～掛矢町での取組より



▲機構より三方よしの考え方を説明



▲塾生の様子

【今後の予定】

日程	時間	内容	講師
第 4 回 (9/6)	19:00～ 20:40	地域づくりの現場と関係人口が地域にもたらすもの	島根大学教育学部（人文地理学） 教授 作野 宏和 氏 (株)シャンテ代表取締役 安達 精治 氏
第 5 回 (9/13)	19:00～ 20:40	地域資源を生かした持続的な観光事業を展開する為には	(株)mint 代表取締役 石飛 聡司 氏
第 6 回 (9/27)	19:00～ 20:40	外国人目線での山陰の魅力とは？これからの地方が取り組むべき「観光」とは？	山陰インバウンドアドバイザー アリス ゴーデンカー氏

※ これらの講座は、オンライン上でリアルタイムでの視聴が可能です。（申込制。一度の申込みで以降の視聴手続きは不要です）ご希望される方は、機構までお問い合わせください。

※ 第7回以降の講座は次回のインバウンドニュースにてお知らせいたします。（全12回、約1週間ごとに開催予定）

JNTO 職員に山陰の魅力ある観光資源や当機構の取組みを紹介しました ～日本政府観光局（JNTO）勉強会～

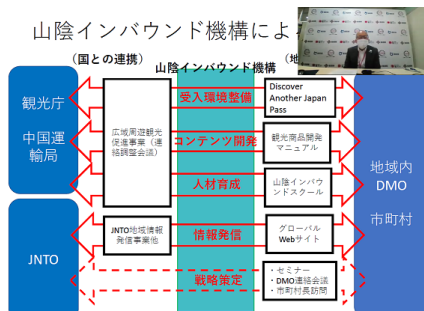
8月25日、JNTOの国内及び海外事務所の職員約70名を対象に、当機構の取組や山陰地域の観光資源をオンラインで紹介しました。これは、JNTO職員が山陰の観光資源や観光振興の取組みへの理解を深め、今後実施する活動に役立てることを目的に、JNTOの要請を受け実施したものです。

当日は、当機構の福井代表理事より「7月にJNTOロサンゼルス事務所と連携して実施した「Japan Virtual Fam Trip」（※当事業の様子はインバウンドニュース7月号に掲載。https://www.sanin-tourism.com/news_dmo/news/7347.html）が大変好評であった。今後もJNTOと地域が連携し一体化した情報発信を実施していきたい。」と、JNTOとの連携について期待を述べました。

その後、当機構マーケティング部より、山陰の訪日観光客の特徴やアフターコロナに向けたプロモーション方針、山陰の観光資源をテーマに説明しました。講師を務めた篠塚部長は「山陰の訪日外国人旅行客の特徴は、国際定期直行便利用の東アジア諸国に依存した市場であることから、運航便運休などのリスクを回避し、安定的に誘客を伸ばしていくには、誘客するルートの多角化が必要である。その為にも近県とつながる鉄道や、高速バス、レンタカーなどを含めて山陰への入り口（ゲートウェイ）ととらえ、当機構が開発したデジタルパスポートを活用しながら、効果的なプロモーションを実施していくことが重要」と説明。さらに、鳥取砂丘や出雲大社以外にも存在する歴史、神話、文化、豊かな自然など、外国人に響く山陰の魅力ある観光コンテンツを紹介しました。

出席者からは、「観光地までのアクセス方法など解決すべき課題はあるが、外国人に響く多くの観光資源が山陰に存在することが分かった」、「担当するエリアで山陰地域を紹介したい。SNSで使える映像や動画を提供してほしい」など多くの意見や要望をいただきました。

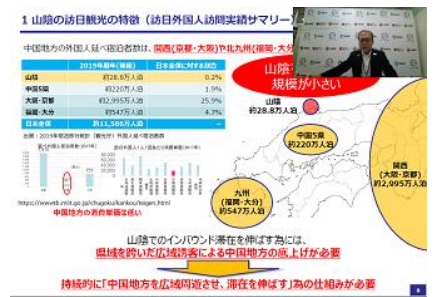
当機構では、今後もJNTOと連携しながら、効果的なプロモーション事業を展開していきます。



▲福井代表挨拶



▲受講者の様子



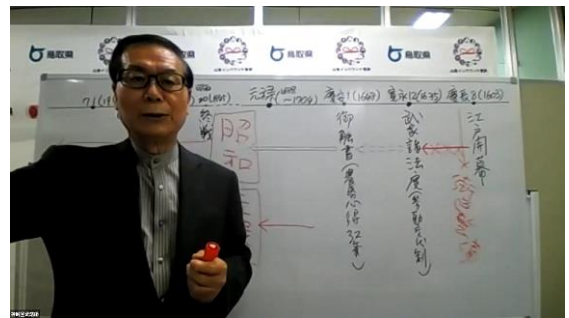
▲当機構マーケティング部の説明

【山陰ツーリズム人材育成塾開講記念セミナー】「『遊山』と『観光』—時代を経ても不変のツーリズムマインドとは」の動画を公開しました

8月17日、観光の未来を担う人材を育成する「山陰ツーリズム人材育成塾」の開講を記念し、民俗学者の神崎宣武先生を講師にお招きし、オンラインセミナーを開催しました。

約100名が視聴した講座で神崎講師は「江戸期には年貢の割合が軽減され、庶民の間に旅に出る余裕が生じた。一方で、むやみに村を離れてはならない、というテーマエに対しては神社詣という方便が立てられ、もっとも妥当だったのが伊勢神宮への旅であった。その数は現在の海外旅行者の人口比に匹敵するほどであり、「どこかに行きたい」という旅への希求は今も昔も変わらない」と説明。また、「街道が整備され、庶民の間で流行した江戸期の旅には、現代の観光にも通じるおもてなしに必要な要素がある」と論じられました。

セミナーの様子は、機構の公式 YouTube チャンネルで公開していますので、見逃された方は、是非、ご視聴ください。



【機構公式 URL】 https://www.youtube.com/channel/UCx4vy7n85H44dEzx_112VJg

山陰DMO 検索

観光関連統計等

山陰への訪日外国人宿泊者数※観光庁宿泊旅行統計調査（従業員10人未満の施設を含む）

期間	山陰への訪日外国人宿泊者数（鳥取/島根）	比較
2021年5月	3,100人泊（鳥取1,450人/島根1,650人）	前年同月比 約2.1倍
2020年5月	1,450人泊（鳥取1,030人/島根420人）	
日本全体の現状 2021年5月 (速報値)	242,170人泊 ※観光庁宿泊旅行統計調査 https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/s_hukuhakutoukei.html	前年同月比 42.5%増